

北西海岸先住民と観光—サケとトーテムポールを資源に

齋藤玲子

(北海道立北方民族博物館)

アネット島のメトラカトラ・インディアン・コミュニティは、アラスカ唯一のリザベーションである。かつてはサケをはじめとする漁業・水産加工業と、林業・製材業が盛んであったが、1999年に製材工場が閉鎖され、水産業も90年代以降低迷を続けている。

そのようななか、観光は90年頃から始まった積極的な取り組みが功を奏し、90年代末から旅行客が急増、2002年には8,700人の入り込みがあった。村内ツアーでは博物館や工芸館、水産加工場の見学のほか、踊りのショーやサケ料理などが用意されている。人口1,400人ほどのコミュニティにとって、新産業への期待は高い。

交通事情の改善、ビジターセンター建設などのインフラ整備のほか、観光客に見せる文化的プログラムの開発や振興にも、さまざまな資金的援助の活用がなされている。メトラカトラの例を中心に、北西海岸先住民の観光活動について、開発援助の視点をまじえ報告してみたい。